

NEWS 港湾ニュース

■「炭鉄港」 日本遺産に認定

室蘭市 港湾部

1. 室蘭市の概要

室蘭市は北海道の南西部に位置し、市名はアイヌ語の「モ・ルエラニ(小さな坂を下ったところ)」に由来しています。北海道の南西部に位置し、明治5年の開港以来、100年以上にわたって港を中心に製鉄、製鋼、石油精製、造船など「ものづくりのまち」として発展しました。

港の歴史は古く、明治新政府が北海道の首都を札幌に定めたこととともない、本州からの函館－札幌を結ぶ貨物輸送路の一路として、噴火湾を渡る海上航路が開設されたことが室蘭港の始まりであり、令和4年には開港150年を迎えます。

2. 「炭鉄港」とは

昨年5月に北海道の産業革命を支えた「空知の石炭」、「室蘭の鉄鋼」、「小樽の港湾」に各地域を結ぶ「鉄道」を加えた「炭鉄港」の歴史が、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして評価を受け、北海道で4件目となる日本遺産に認定されました。



炭鉄港を構成する3つの地域

炭鉄港の始まりは薩摩藩主島津斉彬による集成館事業に由来します。薩摩藩内では欧米列強に対抗するため、北海道開拓の必要性が認識・成熟され、明治を迎えると、北海道開拓使には、黒田清隆をはじめとする多くの薩摩出身者が要職に就き、北海道の礎を築きました。

明治政府にとってエネルギーの国産化は重要な課題で、アメリカ人技師ライマンによって空知地域に石炭層が発見されると、国家プロジェクトとして産炭地(空知)と積出港(小樽)を結ぶ鉄道が、僅か3年という短時間で敷設され、小樽港から良質な石炭が日本各地に移出されました。

3. 港が支えた室蘭の発展

当初、石炭積出の中心は小樽港でしたが、出炭量の増加に伴い岩見沢－室蘭間の炭鉄鉄道が敷設されると室蘭の役割が大きく変わりました。太平洋側に位置する室蘭港は、関東方面への物資の輸送に適しており、掘り込みの必要がない天然の良港であったことから、室蘭港が移出の中心となっていきました。

また、鉄道国有化に伴う北海道炭鉄鉄道の鉄道事業売却益により、製鉄事業が興され日露戦争を契機に海軍による兵器の国産化を目指した時代背景とも重なり、室蘭は製鉄・鉄鋼のまちとして日本の工業を支える役割を担っていきます。

炭鉄港の足跡として、製鋼所内に建てられたレンガ造りの旧火力発電施設や、明治の洋風建築の面影を残す旧室蘭駅舎など、市内の8カ所が構成文化財の指定を受けました。



室蘭市内の文化構成財

左上 旧火力発電所(日本製鋼所) 右上 旧室蘭北炭会員倶楽部
左下 工場景観と企業城下町のまちなみ 右下 室蘭市旧室蘭駅舎とSL

4. 室蘭港の新たな活用

今年1月には日本遺産「炭鉄港」ガイド養成事業を開催、3月には日本遺産認定記念フォーラムの開催により、「炭鉄港」を活用した観光振興やまちづくりへの参画意識の促進に向けた取組を進めるとともに、「室蘭こ

ども環境フェスタ」で炭鉄港グッズの製作による炭鉄港PRを行いました。今後、市内8カ所の文化財前の歩道等にサインを設置するとともに近くの文化財を散策できる散策ルートを設定し、港のにぎわい創出や貴重な文化資産、観光資源と捉えて広域的な連携を図ります。

■ 日本遺産認定『炭鉄港』の取り組み

小樽市 産業港湾部

小樽市は、昨年5月20日、日本遺産『本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～』として空知管内の9市町及び室蘭市、安平町とともに認定を受けました。

現在、北海道及び12自治体等で構成する炭鉄港推進協議会において、地域活性化に向けた様々な取組を行っています。

- 日本遺産とは … 地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、有形・無形の様々な文化財群を活用し、地域活性化を図ることを目的としています。
- ストーリーの概要は … 『明治の初めに命名された廣大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」・「鉄鋼」・「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。

100km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。そ

の急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらします。』となっており、港湾が鉄道とともに北海道の発展に大きく貢献したことや今も残る本物の産業景観が訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらすという物語です。

- 主な構成文化財 … 小樽港北防波堤、旧手宮鉄道施設(国指定重要文化財)、小樽中央市場等
- 炭鉄港の取組 … 炭鉄港推進協議会が文化庁の文化芸術振興費補助金、文化資源活用事業費補助金のほか、各自治体が拠出する負担金を財源に各地域でのフォーラムやガイド養成講座の開催、パンフレットや炭鉄港カードの制作・配布などを通じ、人材育成・普及啓発・情報発信等を行い、次世代への継承やシンビクプライドの醸成を図ります。

小樽市の独自事業としては、教育旅行誘致のため、北海道開発局小樽開発建設部小樽港湾事務所のご協力をいただきながら、炭鉄港のストーリー紹介と廣井勇博士を筆頭に当時の技術者の先見性や功績を伝える取組を行います。



小樽港北防波堤…建設から100年以上経過した現在も第一線防波堤として機能を果たしている。



第一期小樽築港工事記念碑…「與天無極」天のとこしえなるが如く、この防波堤は永久なりという意味とのこと。(小樽港湾事務所みなとの資料コーナー) 揮毫は、第四代北海道廳長官、北垣国道氏



モルタルブリケット…コンクリートの長期耐用を調べる試験用供試体(同みなとの資料コーナー)